

第3種郵便物認可

TOKAI ASAHI

枝豆やオクラなどの栽培に汗を流す人たち―愛知県豊明市沓掛町



わーくはぴねす農園



「障害者雇用」も育てたい

小松菜など年間を通して40種類ほどの農作物が栽培されている。

一画で知的障害のある3人が水やりや土壌の管理に汗を流していた。ドラム缶

に働いてもらえるのが何よりうれしい」と話す。収穫したラディッシュや水菜などの野菜は、工場で働く社員らに配布したところ喜ばれたという。

障害者の就労を支援する会社「エスブループラス」（本社・東京都）が農園を運営する。工社は農園を借りた企業に対し、研修を積んだ知的障害者を紹介し、社員として雇用してもらう

た上で、農園で働ける仕組みを作った。農園を借りた企業には、障害者雇用促進

法で義務づけられた法定雇用率を達成できる利点があるという。

最大の目的は障害者の雇用を確保すること、そこに目を付けた豊明市が農園の誘致に動いた。市は用地を探し手伝いや障害者団体とのパイプ役となつて事業を後押しした。造船会社や学習塾、ビル管理会社など10社を超す企業が農園を借り、障害者ら約70人の雇用が新たに生まれた。

工社の和田一紀社長（42）は「企業による知的、精神障害者の雇用は進んでいない」と指摘。「一人でも多くの雇用を生み出したい」（松永佳伸）

約1万平方メートルの敷地にはビニールハウス2棟が並び、ミニトマトやメロン、

約1万平方メートルの敷地にはビニールハウス2棟が並び、ミニトマトやメロン、

約1万平方メートルの敷地にはビニールハウス2棟が並び、ミニトマトやメロン、